

## 令和6年度 第1回大田区SDGs推進会議 議事録

日時	令和6年6月10日(月) 午後4時00分から午後6時00分まで	会場	羽田イノベーションシティ PiO PARK
出席者	■村木会長            ■高木副会長            ■松本委員 ■北村委員            ■磯委員                ■藤原委員 ■出席                □諏訪委員            ■海老名委員            ■西委員 □欠席                ■齋藤委員            ■梅崎委員            ■山田委員		
傍聴者	6名		
配布資料	次第 資料1 大田区SDGs推進会議委員名簿 資料2 事務局資料(1) 資料3 事務局資料(2) 資料4 事務局資料(今後の予定について) 参考1 大田区SDGs未来都市計画 参考2 申請様式案一式(申請書、誓約書、宣言書、チェックリスト) 参考3 大田区SDGs推進会議条例 参考4 大田区SDGs推進会議条例施行規則		
次第	1 開会挨拶 2 委員の委嘱、新委員の紹介・挨拶、会長・副会長選出 3 議題 (1)SDGs宣言・登録・認証制度 「SDGsおおたスカイパートナー」について (2)SDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体等の 行動変容について 4 今後の予定について		

## 1 開会挨拶

### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ただいまより令和6年度第1回大田区SDGs推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私は本会議の事務局を務めさせていただきます、SDGs未来都市推進担当課長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、諏訪委員1名が欠席となっております。なお、本日の会議は、議事録作成のため録音させていただき、議事録は、後日区のホームページで公開させていただきます。

では、会議の開催にあたりまして、企画経営部長の齋藤よりご挨拶をさせていただきます。齋藤部長よろしくお願いいたします。

### ○齋藤企画経営部長

皆さんこんにちは。大田区役所の企画経営部長齋藤でございます。皆様には大田区のSDGsの推進にご協力とご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。今年度から委員の皆様は、新たに2年間の任期ということになります。変更追加の方もいらっしゃいますので、後ほどご挨拶を賜りたいと考えてございますが、このメンバーでこの年度をやっていきたいとこのように考えてございます。それで、昨年度のSDGs推進会議の中では、宣言・登録・認証制度をどうするかといった問題であるとか、様々な議論を頂いたわけでございますが、今日もその議題について皆さんにご意見を賜りたいと考えています。それと皆様の机上に、委嘱状とSDGsのオリジナルロゴバッジ、これは昨年度製作しましたので、配布させていただいております。啓発にご協力いただければ幸いです。

なお、我々SDGs未来都市に昨年度内閣府に認定されたわけですが、今年度もまた内閣府からSDGs未来都市の発表がございまして、お隣の品川区がSDGs未来都市になったということでございます。先般区長とも話したのですが、ちょうど23区の中では7区目になりますが、特に品川区さんはお隣ですので、負けてはられないなということで、ますますSDGsに関して政策を強化していこうということでございます。そんなこともございますので、皆様方もまた忌憚のないご意見を賜りながら進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 委員の委嘱、新委員の紹介・挨拶、会長・副会長選出

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ありがとうございました。

続いて委員の委嘱でございます。委嘱状の交付につきましては机上配布とさせていただきます。つきましては大田区SDGs推進会議条例第3条及び第4条より、本日から令和8年3月31日までの2年間、大田区SDGs推進会議委員を委嘱いたします。昨年度から委員をお勤めいただいた方は、引き続きよろしく願いいたします。また、今年度から新たに委嘱した委員についてご紹介いたします。小林委員に代わり、今年度から委嘱いたします、株式会社日本経済研究所産業戦略本部サステナビリティ経営部 部長 松本 哲也 様です。松本委員、一言ご挨拶お願いいたします。

○松本委員

今ご紹介を賜りました日本経済研究所松本と申します。本年度からよろしく願いいたしたいと思っております。私自身は、今、仕事としては産業調査、あるいはサステナビリティにまつわるコンサルティング等、そういったことをやっておりますので、その中でいろいろと有益な発言ができればと思っております。よろしく願いいたします。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ありがとうございました。

続いて、大田区リサイクル事業協同組合 理事長 西 義雄 様です。西委員、一言ご挨拶をお願いいたします。

○西委員

ただいま紹介をいただきました西と申します。本職のリサイクル屋でございます。専業としてリサイクルをやっている会社です。よろしく願いいたします。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ありがとうございました。

続いて、区側の出席者の交代でございます。大田区産業経済部長 梅崎 修二でございます。梅崎部長、一言ご挨拶をお願いいたします。

○梅崎委員

産業経済部長に着任しました梅崎でございます。まさに企業様の取組や、本日議題となっている認証制度にも大きく関わってくると思いますので、しっかり皆様と議論させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ありがとうございました。

続きまして、大田区SDGs推進会議条例第5条に基づき、会長、副会長を選出いたします。会長、副会長は委員の互選により定めることとなっております。どなたか会長、副会長のご推薦はございますか。

○海老名委員

前年度、村木先生と高木先生にお勤めいただきましたので、引き続きぜひ先生方をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ありがとうございました。

それでは引き続き、村木委員には会長を、高木委員には副会長をお願いいたします。

続きまして本日の資料についてご説明いたします。本日はペーパーレス推進の観点から、昨年度の会議と同様、お手元のタブレットまたは会場内のプロジェクターにより資料をご覧いただく形とさせていただきます。資料としては、次第、資料1として大田区SDGs推進会議委員名簿、資料2、3が事務局資料、資料4が今後の予定について、また、参考1として大田区SDGs未来都市計画、参考2として認証制度に係る申請様式案一式、参考3として大田区SDGs推進会議条例、参考4として大田区SDGs推進会議条例施行規則、以上9点を配信しております。なお、委員の皆様の机上には、タブレットの操作マニュアルを配布しております。職員も待機しておりますので何かございましたらお声がけください。

それでは、これより議題に進みますので、進行を村木会長をお願いいたします。

### 3 議題

○村木会長

ありがとうございます。

それではさっそくですが、議題(1)SDGs宣言・登録・認証制度「SDGsおおたスカイパートナー」についての説明をお願いします。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

事務局より説明させていただきます。

まずタブレットの操作方法について、最初にご案内させていただきます。画面上には事務局進行中のスライドが表示されておりますが、他の資料をご覧になる際は、画面右下に表示されている「参加」ボタンを押して、資料の共有状態を解除し、格納されているデータをご覧ください。

再度「参加」ボタンを押していただくと、事務局進行中のスライドに戻ります。

ではこれより、議題1 SDGs宣言・登録・認証制度「SDGsおおたスカイパートナー」についてご説明させていただきます。昨年度の第3回推進会議におきまして、どのような制度としていくべきか、様々なご意見をいただきましたが、頂戴したご意見等を踏まえまして、事務局のほうで制度案を作成いたしました。

まず、区で導入するSDGs認証制度の名称でございますが、資料名にもございますように、「SDGsおおたスカイパートナー制度」とさせていただきたいと思っております。名称にあるスカイの部分でございますが、本日バッジをお配りさせていただいた、大田区のオリジナルSDGsロゴマークにある飛行機を連想できるような名称ということで、付けております。

資料2ページをご覧ください。

議題1の中身のご説明の前に、本日の推進会議でご説明させていただきます、区の実践の全体像についてお話させていただきます。

本議題のSDGs認証制度は、図の右側のゾーンである、企業に対するSDGs推進に向けた取組となります。

また、次の議題であるSDGsの達成に向けた行動変容は、図の左側のゾーンである区民向けの取組となっております。区といたしましては、企業・区民の両方に働きかけていき、オールおおたでSDGs達成を目指してまいりたいと思っております。

続く3～5ページでは、大田区の未来像や内閣府のガイドラインを示しております。こちらは過去の推進会議でもご説明させていただいた内容ですので、簡単に触れさせていただきます。

まず、3ページですが、大田区では2030年のあるべき姿として、「新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市」を目指しております。SDGs認証制度につきましても、より多くの企業の皆様にSDGs推進に向け、ご協力をいただくために導入する制度となっております。

4ページをご覧ください。

内閣府のガイドラインをもとに作成した、SDGs宣言・登録・認証制度の概要となります。

制度の目的としましては、地方公共団体が、SDGsに貢献しようとする地域事業者等を「見える化」することで、地域における認知度の向上による事業機会の拡大や地域経済の活性化につなげること、また、地域事業者の「見える化」を通じて、金融機関など、様々なステークホルダーとの連携促進や企業のさらなるSDGs推進につなげることが目的となります。

5ページをご覧ください。

こちら、内閣府のガイドラインから引用した資料になります。

SDGs認証制度は、宣言・登録・認証の3つに分かれておりますが、その違いについて示したものになります。宣言がもっとも緩やかな制度で、登録・認証にいくほど、制度の要件が厳しくなります。また、企業に対するインセンティブの水準についても、厳しい制度にするほど、インセンティブを充実させるのが、一般的となります。

ここまでが前回の推進会議でもお話しさせていただいた内容になりますが、本日の資料では、参考としまして資料の左下に、令和6年3月末時点の自治体の制度導入状況を記載しております。宣言については46自治体、登録は69自治体、認証は6自治体が導入しております。なお、複数の制度(例えば登録と認証など)を導入している自治体については、それぞれにカウントしております。

続きまして資料の6ページをご覧ください。

本ページより、大田区としてどのような認証制度としていくべきか、制度の方向性についてご説明させていただきます。

まず、大田区の特徴として、区内の全事業所数が28,000所を超え、そのうち製造業の事業所数が3,584所と都内最多であること、また、卸売業、小売業、宿泊業、飲食業、サービス業等が集積する都内最大級の商店街を有していることなど、認証制度で見える化すべき事業者・ステークホルダーの方が多地域でございますので、区としては多くの企業に参加していただけるよう間口の広い制度が入口として望ましいと考えました。

また、間口の広さとは別ベクトルになりますが、未来都市計画において「新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市」を目指しておりますので、SDGsに取り組む企業や未来都市計画の実現に寄与する取組を行う企業を支援していくことも重要と考えています。

そのため、区の制度としましては多くの事業者が参加しやすい入口部分と、そこからステップアップして、より進んだ取組や未来都市計画の実現に資する取組を応援する部分の2段階に分けた登録制度としてスタートして参りたいと思います。

先ほどのページで、内閣府の区分では、認証制度は、宣言・登録・認証の3パターンに分類されるとご説明しましたが、内閣府の区分で言いますと区の制度は登録制度となります。

制度選択にあたりまして、1段階目の入口の部分は、宣言での導入も検討しましたが、宣言と登録の大きな違いは、宣言であれば要件を満たすことを地域事業者自らが公表しますが、登録であれば、地域事業者に届け出ていただいた上で、自治体で公表することとなります。PR効果等を考えますと、区がHPで公表したほうが事業者側のメリットが大きいと考え、宣言ではなく登録としました。

また、2段階目の未来都市計画の実現に寄与する部分については認証という選択肢もあり得ますが、まずはこちらも登録にてスタートさせていただき、制度の運用状況等も見ながら、認証に発展させていく必要があるか等、検討してまいりたいと思います。

資料の7ページをご覧ください。

ただいまご説明させていただいた2段階での制度案の内容を示したものになります。

まず、多くの企業に参加していただくための入口の制度が「SDGsおたスカイパートナー」になります。スカイパートナーの目的といたしましては、小さなことでも、できることから取り組んでいる企業を「見える化」しまして、地域全体のSDGsの取組の底上げを図ることとございます。

続いて、2段階目の制度がゴールドスカイパートナーになります。ゴールドスカイパートナーの目的としましては、未来都市計画の実現に寄与する企業の支援やSDGsに積極的に取り組む企業を増やすこととなります。

資料2で制度イメージを図で示しておりますが、スカイパートナー制度の認定要件に該当する参加していただいた企業の中で、よりSDGsに積極的に取り組み、厳しい基準をクリアした企業が、ゴールドスカイパートナーとなるイメージとなります。

また、申請要件としましては、区内に本社または支社・支店がある会社又は個人事業主であり、各種法令に違反していないこととなります。

続いて資料8ページで、スカイパートナー、ゴールドスカイパートナーの申請の流れを示しております。

2制度とも共通しておりまして、申請者のほうで必要となる書類を提出していただき、区のほうで内容を確認し、問題なけ

れば認定するという手続きになります。

なお、ゴールドスカイパートナーにつきましては、通常のスカイパートナーで必要となる書類に加え、要件を厳しくしたチェックリスト等の提出をしていただく予定です。

また、それぞれの制度毎のインセンティブ案も記載してございます。内容については後ほどご説明させていただきますが、ゴールドパートナーのインセンティブについては区で予算要求が必要な事項もございますので、ゴールドパートナーについては令和7年度より制度を開始させていただく予定でございます。

では、各制度の特徴、認定基準等について、ご説明いたします。

資料9ページをご覧ください。まず、スカイパートナーになります。

こちらは、今年度中に募集を行い、開始する制度となります。また、繰り返しになりますが、小さなことでもSDGsに取り組んでいる企業を見える化し、地域のSDGs取組の底上げを図ることが目的としてございます。

そのため、認定基準も厳しいものにはせず、申請書・宣言書等の提出書類の内容に疑義がなければ認定とさせていただきます。

右側に、申請の際に提出をお願いする宣言書の内容を記載しておりますが、項目としては、

- ・企業としての2030年のあるべき姿をどのように捉えているか
- ・SDGsの17のゴールのうち、既に取り組んでいる、また、今後取り組んでいきたいゴールは何か
- ・選択していただいたSDGsのゴール達成に向けて、既に取り組んでいることや、これから取り組みたいこと

について、記載をしていただく予定です。

続きまして、ゴールドスカイパートナーの特徴・認定基準についてご説明させていただきます。資料10ページをご覧ください。

こちらは、令和7年度より開始予定の制度で、未来都市計画の実現に寄与する企業の支援やSDGsに積極的に取り組む企業を増やすための制度ということで、認定基準は、通常のスカイパートナーよりも厳しくする予定です。具体的には、区が設定するSDGs未来都市計画を軸にした項目及び、経済、環境、社会の分野の項目の合計40項目程度のうち、一定程度を達成している企業を認定することになります。

右側に未来都市計画を踏まえた認定基準の案として、「デジタル化による生産性向上を推進している」、「稼ぐ力の向上や地域課題解決につながる新たなイノベーション創出に取り組んでいる」等、いくつか例示しておりますが、このような項目に加えまして、経済分野であれば、例えば「利害関係者との適切な関係を保持するための措置をとっている」、環境分

野であれば「温室効果ガスの排出削減に取り組んでいる」など、それぞれの分野に沿った項目を設定する予定です。具体的な項目の内容につきましては、来年度からの運用開始に向けて、次回の推進会議にてお示しさせていただく予定です。

続いて、各制度のインセンティブについてご説明いたします。

資料11ページをご覧ください。まず、通常のスカイパートナーになります。

こちらは、多くの事業者が参加しやすい制度となるよう設計しており、認定のハードルを厳しくしていない分、インセンティブはやや限定的となります。具体的には、認定証の交付及び区のHPでの企業の公表を予定しております

まず、認定証についてはスライドにイメージを記載しておりますが、有効期間は3年間を予定しています。

また、HPでの公表については、業種毎に、企業ロゴマーク・企業名に加えまして、提出していただいた宣言書も公表することで、各企業がどのようにSDGsに取り組んでいるのかもPRしてまいりたいと思います。

続きまして、資料12ページになりますが、ゴールドスカイパートナーでのインセンティブ案についてご説明いたします。こちらは、スカイパートナーに比べて、基準が厳しい分、インセンティブを拡充する予定でございます。

スカイパートナーと同様、認定証の交付及び区HPでの企業名、取組内容等の公表に加えまして、入札での加点、区制度融資による支援、公民連携SDGsプラットフォームとの連携を想定しています。

まず、入札での加点については、区が発注する建設工事における「総合評価落札方式」という、価格評価に加え、技術評価や地域貢献等を総合評価する方式における入札加点を予定しています。

2点目の制度融資における支援につきましては、他の自治体ですと、金利の優遇、信用保証料の割引、融資制度の拡充等、様々行っておりますので、他の自治体での運用状況等も研究した上で、区として、どのような制度とすべきか検討していきたいと思います。

また、3点目の公民連携SDGsプラットフォームとの連携につきましては、本プラットフォームは、地域課題の共有や解決に向け区内での公民連携を推進するために、区が設置したものとなりますが、ゴールドスカイパートナーに認定した企業については、プラットフォームに参加する企業に対してゴールドスカイパートナー企業の情報・取組内容の発信や、SDGsプラットフォームでのセミナーを行う際に呼びかけを行うなど、企業間でのつながりを拡大していけるような取組をしていきたいと思います。

これらの項目が、ゴールドスカイパートナーの現時点でのインセンティブ案になります。

ゴールドのインセンティブについては、先ほどの認定基準とあわせまして、次回の推進会議で改めて、お示しさせてい

たきます。

最後になりますが、13ページに今年度より運用を開始するスカイパートナーについてのスケジュール案を記載しています。

まず、本日の推進会議にて頂戴した意見を踏まえて事務局側で制度内容を調整し、各委員にも内容を確認していただいた上で、制度を確定したいと思います。

その後、9月を目途に広報準備を行い、10月以降、区報や区HPを通じて広報及び募集を行った後、11月・12月で審査や認定準備を行い、年明け1月よりスカイパートナー制度の運用を開始し、認定先についてHPで公表をまいります。

最後に本日ご意見を頂戴したいポイントになります。

事務局としましては、ただいまご説明させていただいたように、区の事業者数の規模等から多くの事業者が参加しやすい制度を入口としつつも、未来都市計画を踏まえた、2段階での制度を検討しておりますが、制度を2段階に分けて運用することについてご意見を頂戴できればと思います。

また、2段階の制度とした場合、それぞれの認定基準やインセンティブについても、ご意見を頂戴できれば幸いです。特に、ゴールドにつきましては、来年度より開始ということで、ご意見を踏まえながら制度を設計してまいりたいと思います。

また、その他、今年度のスケジュール等も含めて、ご意見等がございましたら、頂戴できればと存じます。

では、事務局からの説明は以上となります。

#### ○村木会長

ありがとうございました。

それでは、この意見交換のポイントにもある内容についてぜひご意見を伺いたいと思います。私が最初説明を受けたときに、インセンティブがなかったら手を挙げないのではないかと、そういうところも非常に気になったので、特に民間の方々たくさんいらっしゃる中で、そんなインセンティブでは足りないとか、特にゴールドではない方は、名前がHP上に上がるだけだと、それはインセンティブではないのではないかと思ったりしたので、ぜひご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

## ○磯委員

おっしゃるとおりです。昨年から参加させていただきました。横浜市が結構先進的にやっています。横浜市はどうもいろいろな業種で、3段階で実施しているようです。それで、インセンティブについては当然、入札制度の加点は前提に入っていると思います。ただそれは民間企業としては当然のことです。要は市側としては、広めるためにいろいろなことをやっていますが、難しい問題は、それだけに特化してしまうと、絶対に見えない業者も増えていますので、やはりSDGsについて、まず全般的に分からせる。周知徹底させる。僕らも難しいところがありますが、そういう意味で、民間企業というか民間に周知徹底させるのに2段階でよいのか。私が知る限りの業者間ではよいのかと。横浜のように3段階必要がある。周知させるために2段階というのはなかなか難しいかもしれない。

それから、インセンティブについては、もっといろいろ与えて、なまめかしい話ばかりではなくて、いろいろな意味で区民としてプライドを持てるようなことをいろいろ考えていただいたら、自分は大田区の企業だと、プライドが持てることを何かやっていただいたら、我々民間側としては非常にありがたい。以上です。

## ○村木会長

ありがとうございました。  
他いかがでしょうか。

## ○高木副会長

今の磯委員の話に加えて、まさにSDGsとは何かということ、区民の皆様にも周知するという意味合いからすると、例えば、この10ページにある認定の申請の枠組みを見てみると、今やっていることにSDGsのアイコンをただ貼り付ける、これだけだと今やっていることから何ら変わらなくても認定されるということが、私が今持っている懸念です。SDGsは皆さんご存じのとおり、複数の目標を同時に解決するようなシナジー（相乗効果）、あとは特定の目標に向けて一生懸命行くと、他の分野の目標の達成を妨げるトレードオフ、こういったことを最小限にしていく、このインターリンケージという機能、これをご理解いただくことが非常に重要だと考えています。そう考えると、これまで行っていた事業にSDGsのアイコンを貼り付けるというこの書き方がどうしても、今までと変わらなくてもよいという印象を企業の皆様にも与えてしまわないか。例えば、現在の取組に一工夫加えることで、同時に解決できそうな、取り組めそうなゴールみたいなものを加えてみるとか、そのあたりのところも一つ議題にできればと思います。以上です。

○村木会長

今おっしゃったことは、それぞれのゴールに従って、煙突のようにそれはこうだではなく、これをやると他の事にも関係しますということですね。

○高木副会長

そうです。それをうっすらとでもお伝えしたい。意識してほしい。

○村木会長

なるほど。そうすると、このSDGsのゴールは、例えば10ページの表の一番上、8と9についていますが、普通なら8だけ、でもそれは9にも関係するということを理解してほしいということですね。それはおそらく、もう少しうまく説明しないとなかなか理解しにくいかもしれない。やっていることが9に近い、8に近い、ただそれで、8と9の両方をカバーするというような理解はなかなか普通の人にはしにくいのもかもしれないので、もう少し、認定基準の書き方が、SDGsをやることの意義が分かるような書き方を考える必要があると感じました。他いかがでしょう。

○海老名委員

昨年度から参加している海老名と申します。選定都市に選定されるまでは尖った大田区だったのですが、このSDGs宣言は「尖ったさ」がなくなってしまっている。これは本当にその尖った大田区の宣言に向けて、そちら側に方向性がいくのかという気がするので、そこをやはり忘れない、原点を忘れない様にした方がよいと思うので、やるならしっかり尖った大田区を達成できるようなものをもう少し入れ込んだらいかがでしょうか。以上です。

○村木会長

そうすると、網羅的にというよりも、最初決め打ちで大田区はやっていきました。そこを基軸に、それをもっと進めていく感じですか。

○海老名委員

初めはやはりある程度そういうものに賛同する人たちのリーダーを入れる事の方が先なのではないかと思っています。

### ○村木会長

なるほど分かりました。今おっしゃったことは非常に大事だと思うので、総花的にSDGs、全部なんでもやりますといくと、結局他の行政体や他の地域と何も変わらない。せっかくこれまでの計画づくりが尖っていたのだから、尖ったところからまずリーダーを作って、そこから広げていくという2段階で考える方がよいのではないか。それはおっしゃるとおりだと感じました。

### ○齊藤委員

早速ご意見ありがとうございました。それで、宣言・登録・認証制度という分け方がありますが、これは国のガイドラインがこのような種別になっています。これは絶対的な基準というよりは、多分に例示的なもので、それぞれの隙間も割と曖昧、幅があるものになっています。他の自治体でも、認証と言いながら実態は登録になっているところもありまして、入口はとにかく緩やかにというところが多いです。我々としても、ゴールドではない方のスカイパートナーの方はどなたでも参加できるということで、関心を持ってもらって、まずSDGsをやってみようという気になっていただくことが大事だと思っていますので、そこはそうしたいと思います。

ゴールドの方は、海老名委員も言われたような、尖ったというか、総花的ではなく、特徴づけてということで、その特徴が秀でているところで認定する方法もあるとお話を聞いて感じました。そこをもう少し議論を深められたら幸いと思っています。よろしくをお願いします。

### ○村木会長

ありがとうございます。そうすると、宣言の方はあまり議論の中を深めるというよりも、登録・認証というところで今までやってきた大田区のSDGsの取組を推進してくれる会社が積極的に登録・認証をもらえるような、そういう枠組み、そうするとインセンティブについても、そういう人たちが欲しいインセンティブとは何かということを考えないと、あまり意味がないと思います。他意見いかがでしょうか。

### ○松本委員

松本です。この2段階制度については、私もこの登録・認証のところは、最終的な目的はやはり地域経済の活性化ということがありますので、実効性という観点からいうと、ゴールドの方を重視した方が良いと思っています。ただ一方で、底上

げというのはあると思いますので、宣言のところで、宣言した後、例えば、必ずできるだけゴールドを目指して何年かでやっってください等の条件を付ける、そのようなやり方もあると思っています。現段階では全体的な底上げ、見える化だと思うので、若干観点が違っているかもしれませんが、やはりゴールドを大事にする、あるいは、ゴールドに向けて、宣言したスカイパートナーも動いていくような、そういった後押しをするような制度がよいと思いました。以上です。

#### ○村木会長

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

今ご意見がありませんが、今日の案の中にもゴールドスカイパートナーのインセンティブの案が13ページ目からあります。昨年までの枠組みから考えたとしても、インセンティブでこんなものがあればよい、これだけでは足りない、このようなことがあったらインセンティブになり得る等、何かアイデアはありませんか。

#### ○高木副会長

9ページのインセンティブの所、例えば総合評価落札方式の加点のところを見たときに、業種でメリットのある人達が絞られてしまわないか。例えば建設業の人など。そうなった時にこの大田区に多いものづくりの人たちにとって果たして本当にこれだけでインセンティブになるのかということはいく少し議論できると思います。

#### ○村木会長

今副会長が言われたことは非常に大事なことで、環境と人づくり、それから匠の技、産業が大田区の特徴です。そうすると総合評価方式の加点は区にとっては出しやすいかもしれませんが、ここで出てくる3点を実現する時にインセンティブとして他に何か考えられないか。これだと少し違うのではないか、でも構いません、何かご意見ないですか。

#### ○山田委員

インセンティブの案ということですが、この場所をインセンティブにするのはどうでしょうか。要は計画の時に羽田を使ってということでエッジをきかせようとしてやってきたので、総合評価の関係も区にとってはありますが、スカイパートナーやゴールドになった方が、「やはりやってよかった、大田区で取って商売繁盛」のような形になった時に、この場所を利用できるメリット、また優先活用できるかということ、私は一つありなのかと、環境と産業を連携させる場所としても、ここは可能性がある

と思います。例えばゴールドになった企業や、そうでなくとも先ほど松本委員がおっしゃったパートナーでいずれゴールドを目指そうする企業が、何かビジネスの仕掛けをしたいときに、ここを使って、かつ料金等いろいろありますが、その辺を区の方で、所管は産業経済部になると思うので、私がとやかく言える話ではありませんが、ここを使うことで大田区ならでの、他の自治体で認証をとってもここは使えないわけで、使えないわけではないが、優先的に使えるのはまさに大田区で認証を受けた企業が、ここを使って何かできるような、そこより先の具体の話は私も思い浮かびませんが、何かイベント、会社の催し、個社だけでなく複数社まとまってここでできるとか。そこに例えば経済産業省や環境省等交えながら、何かここで仕掛ける。そのようなこと、または都道府県事務所、市町村、そういった事務局とここで何か仕掛ける。そういったことなんかは、今取っ掛かりの部分しか申し上げられませんが、ここを使ったインセンティブということもあると思った次第です。以上です。

○村木会長

今、山田委員からご意見ありましたが、いかがですか。

○海老名委員

山田委員のお話のとおり、ここの中でつながっていくことは大事だと思うので、人脈。例えば川重、デンソー、あるいは他の大企業がここに入っているの、そういうところとつなぐことを更に斡旋する。先ほど副会長は「総合評価落札方式」の加点は産業が偏ると言いましたが、では偏らないということで、やはりそういう新しい企業とつながりたいということはどこの企業も一緒だと思いますので、そういうことを区がサポートする。もともとこの羽田イノベーションシティの目的の一つがやはり新しい産業を生み出すことで、そういうことをやっている大手とつながる機会をいただくことは、大きなパートナーとしての意義につながると思います。

○村木会長

ありがとうございます。おそらく場を提供するということは、空間を提供するだけではなく、積極的にそういう場を作っていて、そこに参加したいと思わせることも大事です。他いかがでしょうか。

## ○北村委員

きらぼし銀行北村でございます。頂いたお話、今私もきらぼし銀行で、ここの4階にスペースを作らせていただき、スタートアップ企業の応援の拠点とさせていただいています。月に1回、きらぼしピッチというイベントを月末の金曜に開催し、スタートアップ5社が5～7分位登壇されます。一般企業やベンチャーキャピタルの方もいらっしゃいますし、例えばNECさん等、新事業に取り組もうとされている方が結構来られます。最後に投票があり、その5社の中で一番を選出させていただく。そのような、例えばゴールドの方々向けに、海老名委員がおっしゃったようなところを具体的にするとすれば、大企業向けなど、ピッチというかビジネスマッチングの場を具体的、定期的に提供することがあると、まさに将来につながる事例なのかなと思っていまして、その新規、スタートアップ向けの逆転で、大企業向けにリバースピッチということで、提案するような企画を今やらせていただいております、上場企業が、新しい事業を提案してくださいとスタートアップ企業に依頼をするような場も設けていますが、これも結構埋まりが早く、取り組んでいます。そういう観点で大田区も、私どもも勉強させていただいているところですが、更に一般の企業向けに、このメンバーの方々向けにということの一つ、具体的なことになるかと思っております。長くなりましたが以上です。

## ○磯委員

前にも言いましたが、企業はそもそも仕事をとることが大事です。それに対して大田区のサポートがないのか。それとも一つ大きな観点としてはやはり人を取る。今非常に大田区も全体を見れば、深刻な人手不足です。ですから、それに対してインセンティブを積極的に与える。今聞いていて一つアイデアですが、例えば最近Googleが医者の評価をめぐって訴えられています。あそこまで極端でなくても、大田区が積極的に、ゴールドを取ったら、ゴールドだということでもどんどん発信していけばよいのではないのでしょうか。それは社会貢献、大田区に貢献していることですから、極端ですが。だから仕事をいかにとるかという事は、やはり我々民間として商売している時に、いかに商売を取るか。だからその一つで落札方式もある。今言ったようにBtoBで大企業とつながることは我々の大きな望みなのです。できれば下請ではなく五分でやりたい企業はいっぱいあるはずですよ。とりあえず上層関係でやるから下請やなんだかんだではなく、そういうイーブンの立場で大企業、中小企業がビジネスをする。その間に信用度等の問題があれば大田区が積極的に2つ星、3つ星など企業に与える。大企業にどんどん推薦していただく。非常にありがたい。今まで大田区のものづくりというと、2次、3次と下請けの話ばかりしている。そうではなく、できれば、理想かもしれませんが、大企業と中小企業がイーブンの立場でBtoBをやることが、我々の民間からすれば最終的な目的のような気がします。ですから、ゴールドを持っているからどうだということで、ど

んどん大田区が大企業へ仲介していただけると非常にありがたい。図々しいですが以上です。

○村木会長

ありがとうございます。何か返しますか。

○齊藤委員

正直言って、我々も何をインセンティブにするかということは、試行錯誤というか悩んでいます。全国の自治体の事例を見ても、そんなに突拍子もないものが入っているわけではない。ただそうは言っても何か特徴づけをしていかないと、やはり皆様にせっかくおっしゃっていただいたので、そういったところも取り入れたいと考えております。川崎の例を紹介してください。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

川崎の例を映しています。川崎はインセンティブが、「川崎市SDGsプラットフォーム」への参加が可能で、これが今、我々が考えている「大田区公民連携SDGsプラットフォーム」との連携に近い内容になっていることが1点、またHP等で団体の取組紹介、融資制度「SDGs取組支援融資」による信用保証料の補助、入札の「主観評価項目制度」における加点となっており、今回事務局の方で一旦ゴールドの案で出しているラインナップはこちらの川崎市を参考に、同じような項目で作っています。ただいま様々なご意見をいただきましたので、これにプラス何か追加できないかということで、大田区らしさ、尖った部分を検討していきたいと思っております。

○齊藤委員

これを見ると大したインセンティブではないという感じがします。それでも3,000団体以上参加しているので、そういう意味で、取っ掛かりという意味ではある程度成功していると思います。そうは言ってももう少し深めたインセンティブでなければ長続きしていかない話にもなるという気もしますし、そこはアイデアをもう少し絞る必要があると感じています。

○村木会長

はい、どうでしょうか。

### ○松本委員

インセンティブということで申し上げますと、当然こういった企業からすると営業機会を獲得することが、一番関心がある所だと思っています。それでこういった場があると同時に、更に区がおせっかいしてあげる。例えば以前調べたことがありますが、仙台市や福岡市がエコシステムという文脈で、例えば仙台市の職員が、大学や企業がこういう技術を持っている。これを他の企業にもしかしたら使えるのではないかと、おせっかいして提案したりしている。福岡市の産学連携のコンセプトでも、やはりおせっかいをしようというコンセプトでやっています。例えばなんです、これはリソースの問題もあると思いますが、大田区の方が、大田区にはこういったすごい技術があって、これをこういったところにもっていくとよいのではないかと、という提案と一緒に、大田区の企業としに行き行ってあげるとか。あるいは商店で言えば、こんなよい店があるので、これをデパートやカリスマバイヤーと一緒に提案しに行き行ってあげて全国に広めるようなおせっかいをしてあげるなど、そのようなおせっかいのようなコンセプトで少しインセンティブを与えるのも一つあるという感じがしました。以上です。

### ○村木会長

ありがとうございます。他なにかありますか。

### ○高木副会長

高木でございます。ありがとうございます。今のおせっかいの話、関連して、この川崎市は私もSDGsのアドバイザーをしていて、3,288は全国で言っても一番多いのではないかと、本当に大きな数字です。ただこれは市だけでできたというよりも、市と川崎信用金庫が協働で事務局を担っているプラットフォームがあるので、川崎信用金庫がかなりアプローチも力添えいただいているのかと考えています。ですので、区だけで果たして区内の企業にアプローチしきることができるのか。もしくはどういった方々の力を得なければならないのか、その辺りも少し議論できればと思います。

### ○村木会長

なるほど、ありがとうございます。おそらく行政だけでは難しく、出だしから民間と連携していくことが大事ということですね。

### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ただいま頂いた、おせっかいという部分の関係ですが、今回のインセンティブで考えている公民連携プラットフォームに

ついて、現在大小含め、区内外の企業48が参加しています。例えば、区の公民連携の取組で、最近ですと、熱中症の取組など、連携して取組をやっています。我々もこのプラットフォームを今後はより活動的にやっていきたいと考えており、プラットフォームとゴールドをうまく融合させて、企業同士のつながりや、その中に区が入っておせっかいをして、どんどんつなげていく。こちらをインセンティブの案に入れており、拡充していきたいと考えています。

#### ○村木会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

壊すようなことを言って申し訳ございませんが、以前ヒアリング調査でアメリカに行ったときに、日本の都市づくりは何故うまくいかないのかと言われた時に、行政がしゃしゃり出過ぎるからと言われたことがあります。行政側のおせっかいが本当に民間にとってよいのか、それを聞きながら疑問に感じたことがあります。つまり商売していない人が商売している人に口を出してうまくいくのかというところがあって。場を作るのは作るが、やってほしいこととやってほしくないこともある気がする。せっかくの場なのでぜひあれば伺いたい。このプラットフォームも含めて、公共だからこそやってほしいことと、そうでないことについてもご意見あればいただきたい。

#### ○海老名委員

先週福島に行ってきました。福島は原発の事故があって、経済産業省が伴走支援をするということで、東電もそこに入って、やはり本気度が違います。最後はやはり行政の本気度がどこまで作りたいか。形だけやるのではなく、どうやって魂込めて、新規事業を作り、それを実施するかで、そこをどうやるかではないか。行政の人が入っても心がない人が入ってきたらおそらく進まないの、本気度があるメンバーをちゃんとここに入れて一緒にやることができればよいと思います。

#### ○村木会長

齊藤委員、どうでしょうか。

#### ○齊藤委員

いつでも本気でございますが、そういう意味では我々大田区の公民連携は、ある意味、企業と区民と我々、「三方良し」というか、お互いがwin-winの関係にならなければいけないと思っています。公民連携指針の中でそれを象徴するワードと

して、ビジネスを通じて区と連携してくださいとありました。赤字のところ、ビジネスをしながら社会課題の解決にあたる。公民連携指針には前のバージョンがありましたが、その中ではボランティアや社会貢献と言っています。それでは企業は本気にならない。要するに儲けがなければ入ってこないということが始まりで改定しました。ビジネスという表現をして、我々もメリットを享受しますが、民間企業の方々にしっかり儲けていただいて、本業を通じて結果的に我々とよい関係になることを目的としていますので、そのあたりを訴えさせていただいて、今回このパートナー制度について、そのような形で制度を構築できたらと考えています。

○村木会長

はい、ありがとうございます。今の齊藤委員の意見を受けて、他に何か追加できることはあるでしょうか。

○磯委員

やはりそうすると、一番の問題は、我々と行政側と違うところは、行政側はどちらかという、広く公平ではないですか。民間側はなんだかんだ言っても弱肉強食です。今後ますます日本が疲弊し、少子化になったら、やはり一強多弱になることは間違いないと仕事をしていて思います。そうしたらそちらの一強の方を手助けできるかというのが本音です。やっていただけかということ行政としてどうお考えでしょうか。

○齊藤委員

一強の手助けというのは、要するに顧客の方々ですね。

○磯委員

はい。だから大企業でも一番強い所に、大企業を紹介してもらえとか。全部を引き上げることは難しい。

○齊藤委員

企業によってターゲットが違うと思います。そういった強い方もいれば、あるいは高齢、障害等弱い方を狙いとしているところもあると思うので、それぞれのステージによって行政も使い分けしていかないといけないと思っています。そのあたりの

使い分けができると思っています。

#### ○磯委員

是非それはお願いしたい。使い分けですね。全員云々というわけではない。たまたまその業種を伸ばしたいと思ったら、今後このような経済状況では、その一番強いところ、エースが頑張って、みんなが育っていかないと引っ張っていけないです。そこは少し言いづらいかもしれませんが、私は強い所はより強くしていかないと難しいと個人的には思います。

#### ○村木会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

#### ○高木副会長

今の磯委員、委員の皆様からのご意見を伺って、私がこの認証制度を拝見した時に、私も全国の自治体の事例を承知していますが、正直申し上げると他の自治体とやっていることがほぼ同じです。そうすると先ほど海老名委員のおっしゃった、尖った、まさに2030年のあるべき姿を我々は2年間をかけて考えて、この未来都市計画を作って、イノベーションモデル都市を実現していこうとしていて、そこから逆算した、今磯委員がおっしゃったように、強いところを伸ばすというのが一番よいのですが、イノベーションモデル都市というあるべき姿を実現できるような制度に振りきるとい方向もあると思いました。先ほど磯委員がおっしゃったことを繰り返すのですが、やはり今の制度では押し並べてすべての企業にとって良いものを、どうしても行政なので、作ろうとしてしまっている感じはあります。ですから、この方向性は制度の作り方によって違うのではないかと、ちょっと勇気を出してコメントです。

#### ○村木会長

ありがとうございます。今言われたことからすると、尖った大田区でいるのならば、尖った内容でゴールドパートナーとしてやっていって、行政としてそれはできないと思うのであれば、まずは成功事例を作って、そこから裾野を広げる。そのようなやり方もある気がしています。何故このモデル都市とW選定を得られたかといえば、尖っていたからです。その実現化という観点で、いきなり丸いものになる必要はない。そうすると尖ったままで進めていくことは1つのアイコンになるかもしれないし、他の行政との違いも説明できることになるのかもしれないと思ったところでした。それに関連して、いやそんなことは

ないということでも構いませんがご意見いかがでしょうか。

#### ○藤原委員

今話を聞いていて、全体の機運を高めるという意味では、ベースのスカイパートナーは誰でも広く入って機運を高めていく。一方でゴールドはある程度絞るなり、本当にやる気があって、最終的なゴールは何社登録したかではなく、本当にそれを実行して、本当にこれが「他の自治体よりも大田区はやはりすごい、大田区は違う」、そういう企業がゴールドパートナーに入ってもらうための要件をどうするか。それはやはり数ではなく、例えば、1業種1社とか。そうすると区とこんな特別なことができるのか、やはりその設計が改めて大事だと思いました。ではそこをどうするかは、まさに皆さんの知見も踏まえ、大田区らしさを出せればよいと思った次第です。

#### ○村木会長

ありがとうございます。おそらく2ページにある、おおたスカイパートナーは全員であり、その上の緑のおおたゴールドスカイパートナーは、その上に乗っているのではなく、もう少し狭い範囲で、このゴールドスカイパートナーになれるのは3ページのものづくり 匠の技術 イノベーション創出、この3つの柱に関係するということでこれを強めていくなど、もうひとひねりあってもよさそうな感じが今話を聞いて思ったところでした。

#### ○梅崎委員

各委員の話を伺って、産業分野の所管部局として発言させていただきます。

このSDGsおおたゴールドスカイパートナー制度が一番意識の高い所を認証するからには、一定程度基準をかなり厳しくした方がよいと考えています。

実は産業経済部、産業振興協会では既に「優工場認定・表彰制度」を実施していて、企業が「人に優しい、まちに優しい」といった一定程度他のお手本となるような観点で表彰制度のようなことは平成7年から実際に実施しています。

このような観点からいくと297社ほどが、住工調和や技術、経営力の観点からお手本となる企業を既に認証してきています。その方々の話を伺うと、優工場制度の特典としては、PR動画の作成や認証プレートの贈呈、紹介パンフレットなどいろいろあるのですが、やはり認証プレートをもらったことで、仕事が増えたというお声も聞いています。

まさに2030年のあるべき姿として、先ほどの尖った大田区でという観点からいくと、これがやはり区民のQOLの向上に資

するような、まさにその取組が循環するような取組が生きていくというようなところで、やはりここは区民に還元されているという観点もぜひ入れていただくと、その優工場に認定された企業が頑張るということがイノベーションの創出に繋がると我々も考えています。

ぜひ、今回検討されているインセンティブに、大田区らしい他ではやっていないことを、委員の皆様の意見を頂きながら、行政として考えていきたいと思っています。

#### ○村木会長

ありがとうございます。大田区らしさを作っていく必要があると思います。他にご意見いかがでしょうか。

一旦先に進ませていただいて、また思いついたことがあったらお伺いすることで、進めます。

一つだけ気になったことが、「地域の」という言葉が頻繁に出てきますが、「地域の」SDGsというよりも「各企業の」という言葉が最適なのではないかという感じがします。ご説明にも「地域の」という言葉がありました。例えば7ページの目的で、「地域のSDGsの取組の底上げを図る」。でもこれは、各企業がスカイパートナーになるということで、「地域の」SDGsではなく、各企業にとってのSDGsの取組の底上げを図るのですよね。ですから「地域の」という言葉が最適かどうか、もう少し考えていただいた方がよいと思いました。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

こちらの意図としては、大田区にいる各企業が高まっていくことで大田区地域全体がという意図で書かせていただきました。確かに不明瞭な部分もありますので、表現等改めて検討させていただきたいと思っています。

#### ○村木会長

お願いします。そうでないと地域のSDGsというと、地域でどのくらいSDGsができているかを検討しなければならないことになるので、若干違っている気がしました。

他にありますでしょうか。では議題(2)SDGsの達成に向けた区民、企業、関係団体等の行動変容について、説明をお願いします。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

続きまして、議題の2点目について、ご説明させていただきます。行動変容に向けた取組に関しましては、昨年度の第3回推進会議におきまして、ロゴマークの作成等についてご報告させていただきましたが、本日は、今年度の具体的な取組内容についてご説明いたします。

資料2ページをご覧ください。

先ほどのSDGs認証制度は、企業向けの取組でしたが、これからご説明する内容は主に区民向けの取組となります。今年度は、広報物の作成・ワークショップ等の開催・ロゴマークの周知等を予定しております。こちら順にご説明させていただきます。

資料3ページをご覧ください。

まず、SDGsのプロモーションの一つとして、普及啓発のため広報物の作成を予定しています。内容としては、大田区のまちの特徴や身近に取り組めるSDGs、区のSDGsの取組の紹介など、「行動変容を促す」という観点から、区民の方に手にとってもらいやすく、またSDGsについて興味・関心を持っていただけるようなパンフレットのような内容としたいと思います。また、手に取ってもらいやすいよう、大人向け・こども向けに分けて作成することも検討しております。

こちらの広報物については、区の施設やこれからご説明させていただく、今年度開催予定のワークショップで配布することで、SDGsの普及啓発に活用していきたいと思っております。

資料4ページをご覧ください。こちらがワークショップについてです。

多くの区民の皆様にSDGsに触れていただくため、ワークショップも活用してまいりたいと思っております。今年度は年4回実施予定で、第1回については、資料の通り「食品ロスを考える廃棄野菜でお花アートを描こう」というテーマで、先月、実施をしております。こちらは、廃棄野菜等に絵の具をつけて、オリジナルのアートを作るもので、開催場所であるイトーヨーカドー様より廃棄野菜の提供を受けて実施したものです。参加者も多く非常に盛況でございました。

今回参加いただいた方には、アンケートの回答もお願いしております。155名の方に回答いただいております。細かい分析等は今行っているところですが、例えば、本日のイベントを機にSDGsや廃棄野菜について考えるきっかけになったかについては、なると思う・少しなると思うとの回答が155名のうち、148名となっており、一定の効果はあったかと考えています。また、自由意見についても、好意的なものが多いものの、例えば、

- ・コンポスト作りなど、食品ロスそのものを減らすメリットまで学べる内容だとよりよい
- ・廃棄野菜がどうなっているかなどの説明がほしかった

等の今後の内容の改善につながる意見もございましたので、次回以降のワークショップにいただいた意見を活かしていきたいと思えます。

また今年度全4回ということで、残り3回開催予定で、そのうち1回は、11月末の都営フェスタというイベントに出展予定で調整中ですが、SDGsについて考えるきっかけとなるよう、テーマ等を検討してまいりたいと思えます。

資料5ページをご覧ください。

ただいまご説明したワークショップは、区の実組になります、こちらは東京都と連携したワークショップになります。

昨年度の推進会議におきまして、東京都と連携したワークショップも検討とご報告させていただきましたが、今年度の10月20日に開催することで調整しております。

資料の右側のポスターに記載がある通り、首長になりきって遊ぶカードゲームを通じて、SDGsについて学ぶ内容となります。開催テーマは自治体ごとで選択し、使用するカードも自治体ごとに作成するそうですので、区の実組の内容も踏まえて、テーマ等を決定してまいりたいと思えます。

また、資料6ページには、ご参考として都と他自治体での連携イベントの様子を掲載しております。

資料7ページをご覧ください。

区の実組オリジナルSDGsロゴマークの周知についてでございます。

SDGsロゴマークについては、前回職員の名刺に掲載している例をご紹介いたしましたが、ピンバッジとして一般販売することで、より広げていきたいと思えます。

本日、お配りさせていただいたピンバッジについては、本庁舎や特別出張所で販売を本日より開始しており、今後資料の右下、はねびよんとしたコラボしたバッジについても、夏頃の販売に向けて準備しております。

資料8ページをご覧ください。

行動変容に向けた、他自治体との連携でございます。

昨年度、高木副会長がSDGsアドバイザーを務めていらっしゃる京都府亀岡市が使用しているSDGsチェックリストについて、区でも使わせていただく予定とご紹介いたしました。

このチェックリストは、発行物の作成やイベントの実組、会議の実組等の場面を選択して、SDGsの視点に沿った実組になっているかチェックを行うもので、今年度より大田区のほうで運用を開始いたしました。

また、開始したばかりではございますが、資料9ページに現時点の利用状況を記載してございます。

区民への行動変容には、まず、区職員の実組変容が重要になりますので、庁内で運用しながらチェックリストの項目を

ブラッシュアップしていったり、活用方法について亀岡市とも連携や意見交換をしながら取り組んでいきたいと思っております  
また、本日の議題2の最後に区が作成した動画についてご紹介させていただきたいと思っております。

本動画は、今年5月より区のHPで公開しているもので、区が行うSDGsや公民連携をPRするものです。本編は12分程度ですが、本日は5分程度にまとめた、ダイジェスト版を流させていただきます。

(ダイジェスト版の動画視聴)

《本編動画URL》

<https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/kouminrenkei/otakukouminrenkeidouga.html>

ご視聴いただきありがとうございました。

最後に本日ご意見を頂戴したいポイントになります。

区の取組については、ご説明させていただいた通りでございますが、区民の行動変容については、成果が目に見えるものではなく、難しさも感じております。

そのような中、今年度につきましては、広報物の作成や複数回のワークショップの実施、ロゴマークの活用等、様々取り組んでまいりますが、全体的な行動変容に向けた取組に関するご意見、例えばこのような取組もできるのでは、この部分にもう少し力を入れたほうがよいのでは等、広く頂戴できればと存じます。

また、ワークショップについては、今年度1回実施しており、残り3回実施予定となります。

1回目については、廃棄野菜を使用したアートということで、こどもやファミリー向けで実施しております。SDGs関連のワークショップについては、将来に向けてこどもの意識を変えていく必要性や、こどもだけではなく親世代の普及啓発も期待できるため、こども向けがターゲットになりやすいですが、ワークショップの内容やターゲットについても、ご意見を頂戴できれば幸いです。事務局からは以上となります。

○村木会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

最初に申し上げますと、先ほどまでの話と、この行動変容というものはまるきり違うものと考えてよろしいですか。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

そうです。先ほどは企業に対する認証の部分になりますが、今回の行動変容は広く区民全体ですので、未来都市計画という部分よりも、大田区全体の区民の皆様に、SDGsに広く触れていただくためという観点にはなっております。

○村木会長

わかりました。そうすると、ここで言った尖った話とは別に、SDGsそのものを皆さんにご理解いただくためにどうしたらよいのかということですね。わかりました。

○山田委員

今、村木会長がおっしゃった仕切りの違いということで、先ほどは産業で、私は環境担当なので、あまりいろいろ勝手なことも言えないと思っていましたが、今回は私の環境の部分ということで、少し気合を入れてお話しさせていただきます。

行動変容は本当にSDGsをやって行く時に、やらなければいけないと思っています。これは企業も地域も住民もまさにそうで、産業は企業の活動というのが見えると思いますが、環境やSDGs全体はやはり見えない。なんだかよく分からない、見える化してほしいということがよくある。これは我々環境の方でも現在、大変力を入れる必要があると思っています。見える化ということで、結局最終的には企業もそうですが、我がこととして捉えていくことがやはり大事ということで、どのようなプロモーションができるかと今思っています。今の資料にもあったように、いろいろなワークショップがあると思いますが、ここにもっといろいろ仕掛けができると自分なりに考えています。例えば食品ロスなんかでも、こういった現状は非常によいと思いますが、第2弾として、例えば今後これを、お花のアートを描いたと思いますが、食物ロスだから、食物ロスにしないで食べられるようにするかというところ。例えば捨てるのが当たり前だと思われている野菜の端切れでもこれくらい食べられるということを、例えばSDGsのプラットフォームに入っている、またはわれわれの環境のおおたクールアクションというプラットフォームもあって。ダブルで入っている企業も多くありますが、区内の栄養学校等から何かアドバイスをもらってみんなが持続可能を目指す。または産業との連携でいけば、ものづくりがどうしても特化されるのですが、商い、商業の方も匠の方が多いので、匠の技ということで、野菜や魚等、いろいろなことをやる。それを、プロモーションはその場に行かないと、リアルに参加しないと見られないのではなく、せっかくなのでアーカイブにして保存しておいて、DXを使って配信していくという、やはり見える化した方がよいと思っています。これは私の持論ですが、特に将来を担っていく子どもたち、教育委員会との調整は多分に必要なのですが、ご存じのようにコロナで、GIGAスクールで自宅でも勉強ができるように、基本一人

1台タブレットを持っています。区内の小中学生4万人がタブレットを持っている、とてつもないことであって。行政は今まで紙でやっていた。だから静止画で、写真で、かつインクがもったいないと白黒という、わけがわからない、見える化といっても全然見えない。そのような中で、動く動画で、カラーで、音声も入って、それが発信できるというのは、このプロモーション活動とそういったところが更にタグを組んで厚みを持たせると大変効果的なプロモーションになっていくと思います。あと、それを環境やSDGsのプラットフォームで、常にオンサイト、掲載しておく、結局今まで行政の環境イベントがエコプラザのような建物であっても平日の9～17時で終わり、土日はやっていません。結局今のような多様な生き方の時代に、365日24時間アクセスできたり、自分が投稿できたりといったところから、このようなプロモーション活動を通じて、プラットフォームをより一層を広げて、先ほど地域のSDGsということがあって、産業の部門では確かに検討は必要ですが、さらにそれを包含するような地域のSDGsということでいくと、こういったところも私は非常に大事と思って聞いていましたし、今発言させていただいた次第です。長くなりました。以上です。

○村木会長

ありがとうございました。他、いかがでしょうか。

○高木副会長

このワークショップ等の終着点ですが、先ほどハザードマップの映像が出ていました。これまで行っていたことにSDGsの冠を新たにつけることや、17目標ごとに分類してアイコンをつけること、ここが終着点になってしまつては、SDGs以前と以後で何も変わらない。このあたり、例えばハザードマップの中に、SDGs、これは目標「11.住み続けられるまちづくりを」ですが、今まではハザードマップのことばかり考えていたけれども、他のSDGsの目標、例えば「10.人や国の不平等をなくそう」とあります。その視点から考えれば、例えば、粉ミルクではなく液体ミルクを導入して、こどもたちにとっても防災の備蓄用品の質が向上したとか、障害をお持ちの方にとっても避難しやすい避難所になったとか、たとえばそのような、何かしら新たな積み重ねを、SDGsを使ってもたらさないと、今までやってきたことと変わらない活動になってしまうのではないかとということも、一つ気にしています。

○村木会長

ありがとうございます。他いかがですか。

### ○海老名委員

今の高木副会長のハザードマップについて、私も次の関東大震災の震源地の一つが大田区の可能性もあると伺っていて、本当のSDGsでいうと、そのような災害時にどのように対応するかも大事。今、8月6日に協会と経営者向けに、震災が発生したときにどこが液状化するか等がある程度知らしめるような会を開催するのですが、その先に、どのように災害が発生した時に連携するかみたいなことを考えていくような取組を、区として働きかけてもよいと思いました。ハザードマップだけではなく、それをどのように活用するか。企業でもBCPの策定もありますが、策定することが目標になってしまって、本来は災害が発生したときに、どのように実行するかなので、実行ができる大田区を目指すために、どのように学校やそこに住んでいる住民の方々を、災害の時にどのように守るかということ、もう少し連携してやるようなことを、大田区らしさとして、そのようなことも一つできるようにしたらよいと思います。

### ○村木会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

### ○松本委員

ここでの区民の方々の行動変容が一番の目的であるとしたときに、まずはこのようなプロモーション活動はもちろん必要だと思います。その前にSDGsとは何かというところを知らない人も多いと思っています。現在ネット等で検索すると、SDGsクイズや環境クイズ等、本当に知らない人向けにあります。要するに今二酸化炭素は世界で何億トン出ている、食品ロスも1/3も世界で捨てられている等、基礎的な背景があってSDGsが入ってきていると思います。そういった一番基礎的な内容を、最初の広報活動かもしれませんが、伝えていく、あるいはそこに今、一般的にあるクイズ形式でもよいのですが、そういったところから入っていく。一般的な人に食品は1/3も捨てられているというのは、非常にインパクトがあると思います。まずはSDGsの背景にあることを知ることをやってもよいのではないかと思います。

というのもいろいろな、パートさん等もいるような企業の例ですが、どのようにSDGsに取り組む企業としての姿勢を知らしめていくかという時に、まずはそういった所から知ってもらおうと、入ったりすることが多くありました。こういったワークショップ等もちろんですが、その前段階ということも広報物やホームページ等で、それを踏まえて大田区はこれくらいCO<sub>2</sub>を出しているとか、食品ロスがある等、その辺りももう少し広報物の内容として必要ではないかと思います。以上です。

### ○村木会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

先ほどの食品ロスのお花のアートでの廃棄野菜。確かに廃棄野菜は食べるだけでなく、他でも使える。でも使った後に結局廃棄するから、廃棄される食品の量としては出ます。私は大丸有地域の「大丸有 SDGs ACT5」の全体コーディネーターをしていますが、そこで廃棄される野菜を産地から持ってきて、地域のレストランで使ってもらおう。そうするとSDGsに貢献して廃棄される食物を使ってお客様に出す。そのお客さんはメニューを注文するとSDGsに貢献することになる。それをもっとポイントにしていくことも手かもしれない。理解してもらおうということは、もう少し連鎖を考えるといろいろなことができるはず。ワークショップの実施ということは、ただ捨てるものを絵で使えるといたら、楽しかったで終わってしまう。そのプラスアルファをどうするかまで考えられるとよいのではないかと考えています。そのあたり少しお考えください。

### ○磯委員

今の話の延長で、大田区は商店の数が東京で一番でいろいろお店があります。大田区の売りの一つはやはり羽田空港です。で一番の問題になっているのは、航空機の燃料「SAF」です。大田区にこれだけ飲食店があるのだから、彼らに協力を上げればSDGsは広がるのではないかと。今思ったアイデアです。相当大田区には飲食店があります。ここから全部廃油をもらって、JALでも全日空でもSAFを作れば、SDGsの質としては非常に高いのではないかと。いかがでしょうか。

### ○山田委員

磯委員、するどいご意見ありがとうございます。実は考えています。ただなかなか実現は難しいのですが、でも本当にストーリーがあると思います。これだけやはり、航空機から出るCO<sub>2</sub>は抜きにしても、こういった空港施設等から出るCO<sub>2</sub>はあるわけです。やはり空港の町、自治体ということで考えると、人口も多いですし、そこから出る各家庭の油、商店、あとは小中学校で給食調理の揚げ物で出る油がある。そういったもので何かできないかと、いろいろ考えると、少し具体的な話になってしまっていますが、いろいろな方が関わってくるので非常に調整が大変であることが見えてきました。実はその考え方を私どもでもできないかと考えてはいます。いずれ実現を目指し鋭意動いていますので、いずれこの場でまた何かお話しができる時があるかと思っています。例えばの話ですが、各18出張所で、週1回午前中に家庭から出る油の回収は実施していますが、それだけです。もっとニーズはあるはず。家庭から出るゴミは一般廃棄物、お店から出るゴミは産業廃棄物ということで法の縛りがあり、許可業者がまったく違う。一般廃棄物は区の許可、産業廃棄物は都の許可になるためな

なかなか難しい。しかし、できない、ハードルが高いからこそやりがいがあるストーリーです。大田区の区民の方が出した油が、いずれ数年かけてSAFになって羽田から飛んでいって、資源循環する自治体だということは、まさにこのストーリーに合う。一生懸命頑張りたいと思います。

○齊藤委員

補足ですが、以前、航空機は経済活動には多大な影響があるので、こういう脱炭素的なところから除外されていた。留めこぼされていた。ところがそうはいかなくなり、国土交通省が航空脱炭素化推進基本方針を策定しました。しかも、羽田空港に空港脱炭素化推進協議会を設置して、大田区の空港まちづくり本部という部署が所属し、その戦略をつくっているのですが、そういう意味からすると、航空機は非常にCO<sub>2</sub>を出しますので、協力していただく必要があることは事実ですので、我々としても働きかけていきたいと考えています。

○磯委員

大田区の大宣伝になると思います。

○齊藤委員

それからSDGsに関する区民の意識調査を約1年前に大田区で実施しました。その時に、SDGsに関して知っていますかという認知度からすると83.4%の区民の方が知っていると、割と高く、これは1年前ですから今実施するともう少し高いかもしれませぬ。ただその一方で、SDGsとは何か知っているが、行動に結びついている率は約4割しかありませんでした。

それで、具体的に何をすればよいか分からないということが、その中で大半を占めています。ですから、我々としてはここがポイントだと思っています。分かっているが、何をしようかというところがある。そのような行動のきっかけを作ることが大事と思っていますので、地道な活動を含めて鋭意実施していきたいと考えています。

○村木会長

他意見のある方、どうぞ。

### ○北村委員

今の話やワークショップのところで、せっかくなので匠の技、区内の企業、もしくは他と連携をして、テクノロジーを使って、ワークショップでお子さんをびっくり感動させることはできませんか。それが例えば区内の企業であれば、区内にこんな企業があって、こんなところで働いてみたいということに繋がらないか。ここに入ってらっしゃる企業でもよいのですが、地元で働いてみたい思いにつながるようなこと、具体的に提案はできないので大変情けないですが。私どもも親子SDGs教室等を開催して啓発しようとしています。今一步、小中学生にびっくりして、感動してもらって、何かのきっかけになっていくようなことをぜひ知恵を絞ってもらって一緒に考えていけたらと思います。そんなふうにできたらワークショップの意味が、こういう幅広にやることも必要ですが、大田区らしさ、区内に住んで働いていただくということからすると、またぜひ一緒に考えたいと思います。よろしくお願いします。

### ○村木会長

ありがとうございます。きっとそのうち新しい芽が出てくるのかもしれませんが。それを一緒に考えていければよいと思います。他にご意見はいかがでしょう。

### ○藤原委員

私もいろいろなところと付き合っ、やはり区民・市民の行動変容はどこでも共通の課題と思っています。わが社はそういう意味では、いろいろな形で支援をしています。具体的に言えば、学校教育等でクッキング。フードロスを少なくするこんな料理ができますであるとか、防災に関してはレジデンスという観点でいろいろな支援をしたりしています。やはり大事なことは、単発的にやってもそこで終わってしまう。先ほどのワークショップもそうです。やはりそれがだんだん行動に落とし込まれて、普通の行動につながっていくという、ここをどう一つ一つの積み重ねでやっていくかっていうことが大事だと思っています。例えば、買い物に行く時には必ずエコバッグを持っていくことが当たり前になっている。それは昔だったら普通にスーパーで袋をもらって持ち帰っていたのが、それが定着している人も非常に多いでしょう。我々企業でも、例えば極力フードロスをなくすために注文する量を減らしたりする。このあたりを定着させていっているようなことを、ワークショップなんかでもできるような取組にするかは工夫が必要です。我々もそんな形でいろいろな他の事例も踏まえてお手伝いできればと思います。

○村木会長

ありがとうございます。他いかがですか。

○海老名委員

先ほど齊藤委員が、アンケートで約4割が何をしたらよいか分からないというなら、クレド等で行動指針を決めてしまった方がよいのではないか。それを教育等でも配布して、大田区としてのSDGsのクレドということで、これをやろうと。やはりある程度教育しないとおそらくそういうふうになっていかない。未来を考えるときに学校教育からそういうものを浸透していくことも重要だと思います。

○村木会長

ありがとうございます。齋藤委員どうですか。

○齊藤委員

学校教育ももちろん大事です。昨年末、馬込第三小学校にペロブスカイトという、折り曲げ式太陽電池、これで気候データをとっています。これは(株)リコーが馬込第三小学校の真向かいに本社を構えており、そして非常にSDGsに力を入れているということがあり、SDGs連携協定を締結しました。その縁で、ペロブスカイトを設置し、そこで気象情報等を測定し、環境学習ができるように仕掛けをさせていただき、そういうことをきっかけに子どもたちに関心をもったということがございました。ですから、海老名委員が言われたとおり、1つのきっかけ、テーマを設定しながらやっていくことは非常に大きい。子どもたちも吸収力が非常にあるので、何か興味を持つと、学んでいただけるので、馬込第三小学校に限らず幅広くやって行けたらと考えています。

○村木会長

ありがとうございます。他いかがでしょう。

○磯委員

ペロブスカイトは注目しています。大田区の施設に極力貼ってはいかがですか。今までの太陽光発電とは相当違うもの

でして、これが唯一日本の今、最先端になっていますので、ぜひやったら注目されると思います。全施設に貼るというのは、コストの問題はあるかもしれませんが非常によいテーマだと思います。

○村木会長

そこは区でまた検討いただければと思います。他いかがでしょうか。

いろいろご意見伺いましたので、それを元に資料等作成いただければと思います。いろいろご意見ありがとうございました。議題は以上になります。マイクを事務局にお返しします。

#### 4 今後の予定について

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

皆様ありがとうございました。それでは最後に事務局より今後の予定についてご連絡をさせていただきます。

まず本日議題(1)でご意見いただきました、宣言・登録・認証制度については、やはりゴールドの部分について改めて事務局の方で、制度について再検討を行ってまいりたいと思います。またスカイパートナーの方については、改めて各委員へメール等で内容をご確認いただいた上で、会長・副会長に相談の上、制度を確定させ、今年度中の運用を目指してまいりたいと思います。

また次回第2回大田区SDGs推進会議ですが、年明け2月頃を予定してございます。議題は現状4点予定しており、1点目はスカイパートナー制度について、どのくらいの企業にご参加いただいたか等実績について報告したいと思います。2点目はゴールドスカイパートナーについて、大田区らしさが抜けている、尖った部分がなくなっている等さまざまご意見をいただきましたので、改めて制度内容を検討させていただき、次回の推進会議でご説明をさせていただきたいと思っております。3点目については、プロモーション活動等の取組実績報告として、広報物によるPRやワークショップの開催状況等。特にただいまSDGsについてラベリングするだけではこれまでのイベントと変わらないというご意見もいただきましたので、SDGsについては他の部分との広がり、そういった所も踏まえたイベント内容等を検討し、どういったものを開催したかご報告させていただきたいと思います。4点目が、未来都市計画の進捗報告として、今後10月頃に内閣府からの進捗状況のヒアリングが予定されており、12月以降にその結果が公表される見込みとなっております。次回の推進会議では、その内容についてご報告させていただきたいと思います。また次回の推進会議の日程等については、改めてメール等で調整させていただきますのでご確認のほどどうぞよろしくお願いいたします。今後の件については以上となります。

以上をもちまして、令和6年度第1回大田区SDGs推進会議を終了とさせていただきます。委員の皆様、お忙しいところありがとうございました。